

## 第3回東日本大震災に関する活動助成 活動報告書

団体名	一般財団法人 京都YWCA
活動テーマ	被災地の中高生のための学習支援及び保養プログラム



3.11以降、福島県の人々の日常生活は、放射線被曝への恐怖やストレスと隣り合わせとなった。特に子ども達は屋外で遊ぶことが出来なくなるなど生活の変化を余儀なくされている。また、震災後の混乱やそのようなストレス及び学習環境整備の遅れなどから、学習意欲の減退・学力低下なども見られる。

本活動は、そのような状況下における中高生を対象とした学習支援及び放射能線量軽減のための保養を目的として、京都市内で補習及び学習意欲喚起のための文化体験滞在を実施した。具体的には、ホームステイを中心とし、昼間は参加者個人の修学度に合わせた個別の学習支援を行い、午後は京都市内の大学見学や歴史的・文化的な場所を訪れた。以上のことは当財団が連携している福島県尚栄中学校の校長先生の意向でもあった。

また、現地の仮設住宅や中学校等とのコミュニケーション構築や信頼関係構築、リフレッシュを目的とした数人のチームによる訪問活動も行った。訪問活動では、土曜日の補習への講師派遣に加えて、当財団既存の青少年むけワークショップも現地で実施した。ワークショップの内容は絵本の読み語りや他文化共生、大学生による国際理解プログラムなどである。上記ワークショップは、京都市内において当財団が実施する既存のワークショップであり、日常では触れることが難しく情報が入りにくい外の世界に触れて欲しいという願いからである。

これら、当財団の活動内容は、被災地向けに新しく創り上げたものではなく、既に長年の実績に基づくものである。従って、特徴としては、経験豊かなメンバーが、被災地ではなかなか経験することが少ない多文化共生や絵本の世界に触れることで、刺激を受けたり開かれた世界に触れたりすることが出来、単なる緊急支援の励ましや支援ではなく、生活や学習面での豊かさに貢献し今後につながりうるものであった。